

科目区分：小学校教科科目
授業科目名：初等国語(書写分)

大学生の文字を書く技術は上達したか

国語教育講座・東 賢司

はじめに

小学校教科(国語)は、15回の講義の中の5回が書写の学習となっている。全体の受講生は100名を越えるために、非常勤講師1名と二クラスを編成し、講義に当たっている。小学校の書写に関しても学ぶべき内容は非常に多いが、小学校免許に関わる書写の時間はこの時間に限られる。そのため、学習者一人が受ける5回の講義をどの様に構成するか、また何を学ばせるかが重要な事となる。学習指導要領では、書写に関する指導について、小学校3年生以上で毛筆指導を行い、硬筆指導の基礎を養うとしているが、この記述に沿って現場の教育が行われているとは言い難い状況になっている。

1. シラバス

この授業の目的と到達目標について、シラバスには以下の記載をしている。

【目的】

小学校教員免許を取得するための選択必修科目であり、小学校教員に必要とされる、作文の見方、音声表現法・文章表現法、硬筆・毛筆の書写について学び、国語の基礎的な知識や技能を習得する。

【到達目標】

書写について、小学校の教師に必要な硬筆・毛筆・板書の実技力を身につける。

【ディプロマ・ポリシー】

教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)

教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。(技能・表現)

書写活動は、実技活動である。「正確に、丁寧に、速く」書く力を育成することが大切であると考えからである

1. 授業の概要

【スケジュール】

- | | |
|-----|-------------------|
| 第1回 | 常用漢字の筆順 |
| 第2回 | 板書の実際 |
| 第3回 | 硬筆の学習 |
| 第4回 | 毛筆の学習(ひらがな・カタカナ) |
| 第5回 | 毛筆の学習(漢字・漢字仮名交じり) |

学習内容は、毛筆と硬筆を時間を半分にして行うという形式にした。教育実習などでは講義中に学習したことの定着・応用が成されていないことが多い。書写は国語の基礎的な力である「文字を書く能力を養う」責任を負っていると思うが、このような状況は、他の学生にも見られる事なのだろうと推定し、講義は、1毛筆は硬筆の基礎であることを徹底する、2硬筆は1文字1文字の練習よりも漢字と平仮名の混じっている文書を教材とする、3筆順の定着を重視する事の三点を大きな目標とした。

硬筆教材そのものは、小学生が使用する平易なものであり、縦書き・横書きで中心に気を付けながら書くという最も重要で、身につけにくい課題を設定することにより、学習者に緊張感を与え、問題意識を高めてもらうという効果をねらったものである。

4. アンケート分析と改善方法

担当回の最後にアンケートを行った。提出された意見をまとめると以下のような記述を見ることができた。

①授業内容について

- ・文字について学べたのでよかった。板書の練習をもっと行いたい。
- ・板書(黒板とチョークの使用方法)が学べてよかった。
- ・文字を書くことに興味を持てた。
- ・作業中心の講義内容で1回1回集中して取り組むことができた。

- ・板書に関して、自分の筆順の違いに気がつくことができた。
- ・板書は感覚がつかめたのでよかった。
- ・今までに学習したことの無い事に取り組めてよかった。
- ・文字を丁寧に書くことを意識できたし、文字の書き方も個別指導を受けたのでよかった。
- ・もっと練習しないと子供には指導できないと思った。
- ・硬筆は普通の生活に直結するものなので、とてもためになった。
- ・板書は他に学習する機会がないので、チョークの持ち方から立ち方、気を付ける筆順など教わってよかった。
- ・硬筆の課題は小学生になった気分であったが、改めて正しく書こうという意識がついた。
- ・丁寧に文字を書くことは小学校以来なかったものでとてもよかった。
- ・毎回の講義を添削で行うことが具体的に国語という教科にどの様に移していくのかわかりにくかった。
- ・板書について、自分が今まで気がつかなかった間違いを他人によって確認できたことはよかった。
- ・硬筆が身に付いた。板書指導も教師になっていく上で必要な事と思う。
- ・文字について日頃は気にする機会がなかったので講義中に考える事ができてよかった。
- ・画数など間違っていて覚えていたものが再確認できてよかった。
- ・筆順などは前で書くことにより意識的になることができるし、新たな発見も多くあり勉強になった。

②教師の指導方法について

- ・個々人丁寧にしてもらえたのがよかった。
- ・個人指導で、自分の苦手なところがよくわかった。
- ・1回ごとに自分の文字が変わっていくのがわかった。
- ・分かりやすい指導。添削も見やすかった。○がたくさんもらえるので、うれしかったが、赤ペンで直してもらったのを見るのがたのしみだった。
- ・自分の文字の悪いところや癖が分かってよかった。
- ・自分では気がつかなかった文字の誤りを添

削してくれたのがよかった。

- ・普段自分の文字を添削してもらえないという機会がないので、改めて見直すことができよかった。

③手書き文字に対する意識の変化

- ・ノートを書くときに意識して書くようになった。またふとした瞬間に鉛筆の持ち方に気を付けます。
- ・文字をきれいに書くことはこんなにしんどいとは思わなかった。
- ・文字をよく見て形を再確認することができた。
- ・授業中にノートを取るときも字形に気を付けて書こうとし、授業よりも文字を書くことに集中してしまったときもあった。
- ・文字を書くときにこれまでは一つの文字のバランスは気にするが文全体のバランスそのものをそれほど意識する事はなかった。この講義を通して、ノートに書く文字なども全体のバランスを気にするようになった。
- ・1文字を丁寧に書くことはもちろん、全体を見たときの文字の配列にも意識が行くようになった。
- ・筆順を気にするようになった。
- ・おれやまがり、点の向きなどは細かい所をなおしただけで文字がきれいになるので、注意するようになった。
- ・きれいな文字が白い紙の上に想像できるようになった。丁寧に書こうとこころがけるようになった。
- ・縦横をそろえたり、大きさをそろえることは普段意識しなかったもので、読みやすい文字はどういうものかという意識の変化があった。
- ・今までは感覚的に書いていたが、講義を通してポイント等を学べたのでそれぞれのポイントに気を付けて書くようになった。
- ・集中していればよい文字が書けるが、小学生がどの様に集中しているのかが気になりだした。どうして書写の学習をするのと質問されたときにうまく答えることができるか心配。個人的には静かな中で文字を書くことはなかったのがよかった。
- ・丁寧に書こうと意識するようになった。
- ・横書きが苦手ということがわかった。自分では中心をそろえて書いているつもりでも、よくよく見るとバラバラだったりするので、普段かくことが多い横書きを気を付けたい。